

# 東洋美術が縁

## 日仏中の文化・経済関係者

### 燕趙園で交流深める

東洋美術に造詣(けい)が深いフランスと中国の文化、経済団体関係者を招いた懇親会が十七日、東郷町引地の中国庭園・燕趙園で開かれ、両国との交流に取り組む鳥取県内の各団体が、フランス国立ギメ東洋美術館中国

美術部長のジャン・ポール・デロシュさん、中国画報協会長の邢雁さん、孔子の七十五代目の子孫にあたるチャイニーズドラゴン新報社主幹の孔建さんらと交流を深めた。デロシュさんは東洋美術の権威として知られ、



県立博物館開館三十周年記念講演会の講師として来日。孔さんら中国側の訪問団一行は、松江市の小松電機産業(小松昭夫

3カ国の友好交流を誓い合うデロシュさん(左から3人目)、孔さん(右端)ら17日、東郷町の依水飯店

社長)が来春、燕趙園に孔子と孟子の銅像を寄贈する計画であることから現地視察のため訪れていた。

燕趙園を視察した邢さんは「中国の古い都の特徴が忠実に再現されている。聖人の像が設置されることでもっと素晴らし

くなる」と述べた。参加者たちは園内を回った後、隣接する依水飯店で親ぼくを深めた。

懇親会の席で、デロシュさんは「将来、ギメ東洋美術館所蔵の中国の秘宝を県立博物館で展示したい」と述べ、孔さんは「河北省だけでなく、孔子のふるさとの山東省との交流を深めてほしい」と要望。県日仏友好協会の高多彬臣会長が「これを機に三カ国の交流を深めたい」と締めくくった。